

## 第5学年5組 算数科学習指導案

場所 5の5教室

- 1 整数 (本時5/10)
- 2 本時の目標
  - (1) 公倍数を使って、問題を解決することができる。 (思考力・判断力・表現力)
  - (2) 公倍数が使えることに気づき、公倍数を使って問題を解こうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
- 3 主体的な学びに向かうための手だて
  - ・問題を理解するために、ICTを使用し、実際にタイルを動かせるようにする。
  - ・全員が問題に対して取り組めるように、考えが書けていない子にヒントカード配布する。
- 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> の図と問題を見て、題意を捉える。 ・タイル4まいでは正方形にはなりません。 ・並べたときの縦と横の長さが等しくなるようにしないとはいけません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に必要な公倍数や最小公倍数について復習する。</li> <li>・問題把握しやすいように、実物を用意し、黒板に掲示をする。</li> </ul>
課題 (2)	2 学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どのようにならべたときに正方形ができるか調べよう。</div>	
展開 (33)	3 解き方を自分で考える。 ・縦の長さは、6cmずつ増え、横の長さは8cmずつ増える。 ・数直線を使えばできそうだ。 4 グループで考え方を共有し、全体交流する。 ・正方形になる時は、一辺の長さが24cmのときです。 ・48cmのときも正方形になります。 ・一番小さい正方形の一辺は、6と8の最小公倍数を求めればできます。 5 本時のまとめをする。 ・6と8の公倍数になるようにならべると正方形ができる。 6 適応問題を解く ・6と10の最小公倍数を見つければ問題が解ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の学習を生かせるように、教室横側にポイントを掲示しておく。</li> <li>・<u>考え方をかけない子には、ヒントカードを配布する。</u></li> <li>・全員が考え方をもてるように、チームで協力するよう指示する。</li> <li>・<u>ICTを使用し、実際にタイルを動かしてみる。</u></li> <li>・縦に何枚必要か、横に何枚必要かを考えるように問いかける。</li> <li>・公倍数に目をつければ解決できるということをおさえる。</li> <li>・考え方が書けていない子には、上の噴水、下の噴水がそれぞれ何分に出るか考えてみようと言を掛ける。</li> <li>・日常生活でも、公倍数を使えば生活に役立つこともあるということを説明する。</li> <li>・何人かの振り返りを紹介する。</li> </ul>
整理 (5)	7 振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">公倍数を使えば解ける問題があることが分かった。</div>	

- 5 評価
  - (1) 今までの学習をもとに、公倍数を使えば問題が解けるということに気づくことができたか。 (活動3のノート・発言から)
  - (2) 最小の正方形をつくるには、縦と横の長さの最小公倍数をとればよいと気づくことができたか。 (活動4の発言・発表から)